

平成27年度 第2回江田島市行財政改革審議会記録（意見概要等）

年月日	平成28年3月23日（水）午後2時～午後3時40分 江田島市役所2階会議室
出席者	◆委員 堂野崎平会長，胡子雅信委員，新家勇二委員，山本修司委員，島津慎二委員， 來山哲委員，山下忠子委員，平田圭司委員，三島雅司委員，田丸正実委員 ■江田島市 土手副市長，小栗総務課長，矢野課長補佐，長原主任
欠席者	吉野伸康委員，濱中繁美委員，岩井一彦委員 内村浩委員
傍聴	広島県市町行財政課 末田主任

委員名	審議会概要
	<p>1 開会 任命替による新委員紹介 ※委員の半数以上の者が出席（10名）のため，審議会は成立</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 議題 (1) 第3次江田島市行財政改革実施計画について (2) 重点取組項目の進捗状況について</p> <p>■意見概要■</p>
事務局	(1) 第3次江田島市行財政改革実施計画について説明 ※特に意見なし
事務局	(2) 重点取組項目の進捗状況について 1ーア.「行政経営の視点による事務改善の実施」について説明
委員	◆評価シートについて，今年度は，作成するというのが目標ということでもいいか。また，作成するに当たり，先進地等どこか参考としたところはあるか。
事務局	■今年度は，シートを作成し，関係部局と調整を行いました。来年度からこちらのシートを活用していきます。参考としたところは，研修資料や他市町から資料をもらい，参考としました。その中から，必要な項目を取捨選択し，関係部局と調整し作成しました。
委員	◆このシートは案であるが，市民から苦情があった場合に記入する部分がないのではないか。ない場合，自分達が勝手に記入して，勝手に評価している気がする。市民満足度を上げることが目的であるなら，苦情を記入するところが必要と考える。悪かったところを直していく部分が必要と考えるがどうか。
事務局	■苦情があった場合，事業自体に不備があったのではないかということで，事業の課題であるとか，5の事業の方向性の部分で上げていこうと考えています。
委員	◆これは，全ての職員に提出してもらうのか。それとも企画部とか，一部の部署の職員に提出してもらうのか。
事務局	■対象として考えているのは，総合計画実施計画にある，254項目について評価し，見直してみようと考えています。市役所全ての事業を対象とすると，相当数になるので，まずはこちらの項目について行っていきたいと考えています。
委員	◆この事務事業評価に関わる職員はいいが，そうでない職員もいる。市民にとって正職員であるとか，臨時職員であるかは分からないので，この評価を行いながら職員教育をして欲しい。
委員	◆28年度は，254の事業を事務事業評価することだが，職員研修はどうか

事務局	<p>っているか。評価をする者が評価の仕方が分からないのでは意味がない。また第2次行財政改革の中で、行財政評価制度を構築しており、5年計画の中で、職員の習熟度が低いので研修を行うと毎年書いている。ということは、研修が実施されていないから、毎回書いているのではないかと思う。今回の事務事業点検というのは、必要ではない事業は無くし、必要であるところに資源を投入していくという試みであるので、職員全体に事務点検シート作成の研修を行う予定はあるのか。それと、総合計画にある254事業のうち、いくつの事業評価を行う予定なのか。また、内部の評価によって公表するものかどうか。先進的な市町ではホームページなどで評価を公表している。市民の皆様は、市役所の中でどういう評価をしているかどうかを公表すべきであると考えている。公表することにより市民の皆様からいろいろなアイデアが出てくると思うがどう考えるか。それから18歳以上の市民2,000人を対象に市民満足度を調査している。世代によってニーズが違う訳だが、そこはどう考えるか。また、自分のところだけでなく、他部署がどのような評価をしているかというのを職員が共有し、江田島市の課題が何であるかを把握し、コスト意識を高めていかないと行財政改革には繋がらないと考える。</p> <p>■研修についてですが、担当職員を対象に実施していきたいと考えています。評価は総合計画実施計画のうち、市の単独で行うものについて実施したいと考えています。実施計画の中には、国や県と共同実施するものがあります。これらについては除いて行います。公表については、集計でき次第、公表していきたいと考えています。</p>
委員	<p>◆総合計画実施計画254のうち、200数十と回答したが、具体的には江田島市単独の事業はどのくらいあるのか。</p>
事務局	<p>■248事業です。</p>
委員	<p>◆評価シートは係長以上の者が評価・分析するのか。</p>
事務局	<p>■事業については、担当が一番よく知っているかと思います。担当若しくは係長、場合によっては課長級になるかと思います。</p>
委員	<p>◆評価者によって評価の考え方が変わってはいけない。研修は総務課が、シートを作成する者に行うということによいか。</p>
事務局	<p>■はい。事務事業評価シートについては、事業そのものを評価するものです。加えて、職員については人事評価制度が来年度から本格実施されます。係長級以上については、目標管理があります。目標を持って仕事をしなさいというものです。事務事業評価と目標管理をリンクさせて設定していくよう、総務課主導で行いたいと考えます。公表についてですが、生のデータを公表するのはいかがかと思えますので、審議会で、こういった形でいかがでしょうかと示した後、提供していきたいと考えています。</p>
委員	<p>◆昨年度と比較して、かなり進んできたと感じている。この実施計画が基本となって今後進めていく中身である。28年度から実務的に、事業と評価を実施していくが、シートと評価能力を合わせて作っていかないと課題が見えてこないと思う。事業シート記入例に示されているが、観光ボランティアに何をするのかといった際、これは研修を行うというのではないと思う。江田島市のイメージアップではなく、全ては将来像である「恵み多きしま『えたじま』」に繋がっていかないとはいえないと思う。</p> <p>教育委員会では6、7年前から事業評価に伴う外部評価を行い、議会へも提出している。私も5年間外部評価をやってきて、中身が洗練され、誰が読んでも分かりやすくなってきていると感じる。教育委員会は、先進的な取組をしているので参考にすればいいかと思う。</p> <p>この事務事業評価は、職員が悩みながら行うと思うが、今後取り組んでいく中で乗り越えていかなければならない課題になると思う。2～5年後定着していけば、よりいいものになってくると思う。総合計画を推進していく中で、核になるものがこのシートによって自分自身の成長に繋がっていけば、素晴らしい江田島市になるのではないかと思う。</p>

委員	◆事務事業評価の肝となるのが、市民満足度調査になると思う。市がどのような事業をしているかを市民の皆様が客観的に評価するのがベースになるのかと思う。満足度調査はどの項目を調査するのか。また、シートを記入するのは、事業を実施している者が記入することとなるだろうが、その結果を、市はどう受け止めるか、市全体としてどう評価していくのかを教えてください。
事務局	■満足度調査ですが、総合計画について、全ての項目をダイレクトメールにより重要度と満足度を調査しています。調査年が変われば、調査対象も変わってきますが、市民の総意を追うことができるかと思えます。
委員 事務局	◆市として評価をどのように受け止めるのか。 ■評価を進めていけば、事業の方向性や仕事の仕方を変えた方がいいかのではないかなど、課題が見えてくるかと思えます。課題が見つければ、改善策として上げていければいいかと思えます。
委員 委員	◆是非活用してください。 ◆今の質問の答えとしては、最終的な意思決定はどこがするのかということではないかと思う。各部、課で稟議を上げ、さらに副市長、市長へ上げていくのですが、果たして市長、副市長の決裁だけでいいのかどうか。例えば幹部会議で精査し、こういう方向で進んでいきましようとか。そこはどう考えるのか。
委員	◆情報公開の時代で、ホームページとかに掲載が義務化される時代である。数値目標をどうしていくかということが重要になってくるかと思う。どういう数値目標で、どこに視点を置いて、具体的にどうしていくかということまで報告すれば評価されたことが非常に分かりやすいかと思う。
委員	◆事務事業評価シートの取扱いや今後の取組について意見を頂いているところですが、市の最上位計画である総合計画がある。この計画に沿って今後10年間のまちづくりを進めていくときに、計画で定めたものだから、固定でこの事業を行いましようというのではなく、自分自身も評価をしていくし、市民の皆様からも声を聴きながらPDCAサイクルを回して一つの事業を事務改善しながら10年間目標を達成するために進めていこうというくりがある。その大きなくりのツールとして、事務事業評価シートを使って28年度は取り組んで行きたいと思う。こういった審議会で、事業評価シートの活用の仕方はどのような活用の仕方がいいのかとか評価項目のときに目標の立て方はどうなのかとか、様々な節目で意見をいただきながら、事業評価シートがよりいいモノサシになるように、改善していきたいと考えている。先ほど、田丸委員から教育委員会では、自己評価と外部評価の取組を既に進めているので、そういった観点をこの評価の中に取り入れてはどうかと御示唆いただきましたので、その部分についても検討したいと思う。あくまで、シートを作るのが目的ではなく、総合計画に掲げた事業を、よりいいやり方で進めていくためのモノサシとして取り入れたいと思っている。モノサシ自身もよりいいものにしていかなければならないし、使う職員も同じようなモノサシの充て方をする職員を育てていかなければならないと考えている。今後も厳しい目でご指摘頂ければと思う。
会長	◆評価をする者の力量も課題になってくると思う。本人がいいと思っても、外部や上司が見れば違ってくるのではないかと。そういったところのチェックもしつかりすることが大事になるかと思う。一つ聞きたいのだが、目標を数値で表せないものもあるかと思う。具体的に、数値で表せないようなものはどういうやり方をするのか。全て数値化できるのか。
事務局	■内部管理やソフト事業は数値目標が立てにくい場合もあります。そうした部分は5年分の予算などで判断したいと考えています。予算が減って効果が上がれば一番いいのですが、増えた場合でも理由づけができればいいのではないかと思います。
委員	◆以前も話をさせていただきましたが、当然ながらPDCAサイクルを行って行く中で、第2次総合計画の精度を上げていくかが重要だと思う。PlanとDoについてはいいのだが、Checkの部分について、先ほどから意見が出ているところで

委員	<p>す。評価したものをどう判断するかという Action に繋がる部分です。ここで提案なのだが、可能なら第三者を入れて、市民満足度の調査を行い、その結果を踏まえて結果がどうなのか、職員だけでなく、客観的に見られるような専門的な方に判断してもらい、今後の方向性や改善策を提案してもらおう。現実的にはどうか。</p> <p>◆ただ今のご意見は、前政権でいう事業仕分け、現政権でいう事業レビューというようなものではないかと思う。それに馴染むかどうかという事業はあるかとは思いますが、事務事業をスクラップアンドビルドするとき、特にスクラップしていくときの話になると思うが、そういったときに、第三者の評価を得ながら、この事業については投資費用に効果が見合っていない、市としては中止したいがどうだろうか。内部的な評価はこういった評価が出ているが、もしかしたら違う手法を使えばよりいいものになるのではないかと。それとも全くスクラップして全く違う観点で事業を興す方がいいかもしれないという判断を仰ぐときに、方法論としてはおもしろいかと思う。方法については内部で検討させて頂ければと思う。先ほど胡子委員が言われたように、第2次行財政改革のときには内部の12の事業を試行として、事業仕分けの手法を使って、この事業は今後も続けていくのがどうなのかということのを庁内で検討してみた。そのときに自分の本来の仕事以外の部局から意見をもらうだけでもかなり視点が違うということがあったので、内部と外部の評価を組み合わせながら事業をスクラップするときの一つの手法として研究させていただければと思う。一足跳びに辿り着くのはかなり難しいと感じている。将来的なものとして捉えながら研究させていただければと思う。</p>
事務局	<p>■先ほどご意見のありました、市長の決裁だけを受けて評価するのではないかとということですが、実際にはこの会議と行革の本部会議というのがあります。これは部長職が集まって行うもので、その下には推進班というのがあります。さらにその下にワーキンググループというのも設置要綱の中にあります。自分の部署、もしくは課だけで決裁を上げたものは、ここでもう一度他課の部署からの視点が入ろうかと思えます。こういったのも活用しながら実施できればと思えます。今回は、外部の意見というのが、市民満足度、つまり市民の目ということですので、内部と外部、両方合わせたものを一回目は実施させて頂いて、今後、物足りないようなら外部の方も検討させてもらえたらと思えます。内部の組織であれば、ワーキンググループや推進班もあります。これらを今後も活用できたらと考えます。</p>
会長	<p>◆こういったシートができましたので、一度活用し、内部の評価をしながら修正を加えて来年度から実施をしていきたいということによろしいでしょうか。</p>
委員 崎会長	<p>◆（はい）</p> <p>◆それでは、続いて2番目の「市民ニーズに対応した人材育成と組織体制の構築」について、事務局説明をお願いします。</p>
事務局	<p>■1ーイ「市民ニーズに対応した人材育成と組織体制の構築」説明</p>
委員	<p>◆一市民として、数字の細かいところはよく分からないが、江田島市の職員が、「よくやっているな」と、目に見えたものが欲しい。ですから、「ああやる、こうやる」ということも大切だが、そうした間に、部長や課長が部下をどういう風に職員を育てていくか、課をまとめていくかという、やる気があるかということが大切だと思う。話が外れるかもしれないが、数値が上がったからといって、やる気があるとは思えないような気がする。</p>
事務局	<p>■人材育成については、すぐにできるものではなく、時間がかかるものだと考えています。最終的な目標としては、市民満足度を上げていくことができる職員、よく頑張っているなど評価を頂ける職員を育成することが目標です。そのために、人事評価制度等、上司が部下のいいところを伸ばしていく制度があります。こうしたことを積み重ねていくことにより、「市の職員はよく頑張っているな」という評価を頂けるのではないかと考えます。そのためにも、研修や能力評価を行い、職員を育てていきたいと考えています。</p>

委員	◆人材育成の部分で、「江田島市人材育成基本方針」が、平成 21 年 6 月に策定されている。策定から、約 7 年経っています。新たに人事評価制度も加わっており、作成時と様相が変わってきているかと思しますので、修正や見直しをしてもらいたい。それと、今年度 6 月に「定員適正化計画」が策定されています。まさしくこの会議が、市の定員適正化を審議する場であるのなら、委員の方に計画を配付しているのでしょうか。
事務局	■定員管理計画は、委員の方には配付しておりません。
委員	◆組織のスリム化やアウトソーシング等書いているが、その進み具合によって職員数の適正化が変わってくると思います。10 年の長さで職員数を設定しているが、これからの社会状況の変化などで、市役所の仕事の仕方が変わってくると思います。審議員の方にはこの計画を配布するべきと思いますが、いかがでしょうか。
委員	◆定員適正化計画を作成した趣旨は、次年度の職員採用計画を立てるためにつけており、内部管理的な意味合いが強い。行政情報として提供させていただいたのは、議会の総務常任委員会に情報提供させていただいた。本来的には、職員の採用計画を立てるための基本ということで考えている。外部への公表については、もう少し内部で精査させていただき、公表できるものをご相談したいと考えている。決して、どういった考え方で組織を作っていくかということを開示しないという訳ではなく、作り込んだ前提が、内部管理のために作成したものである。組織をこういう形で作っていくことを市民の皆様に見てもらうのは、もう少し時間をいただければと考えている。
委員	◆私が言いたいのは、市のホームページで公開しなさいというのではなく、行財政改革審議会委員の方には必要なのではないのかと思っている訳です。そこはまた内部で検討してください。
委員長	◆はい。
委員長	◆私も条例を見てみるとこの審議会は、行政組織に関する事、職員定数に関する事、職員給与に関する事とあるのだが、このような話題が出てこないのは、私としてもどうなっているのかなと疑問に思う。
委員長	◆また説明の機会を与えていただきたい。
事務局	◆先日新聞にもありましたが、江田島市の人事評価制度は、給与には反映していないということが掲載されていた。将来的には給与に反映するということを考えているのか。
事務局	■現在は、給与に反映させることは考えていません。ただ、昇格時の参考にさせていただきたいと考えています。あくまで、本人の長所を伸ばすために活用するものと考えています。
会長	◆もうひとつ。私は福祉の現場にいるが、職員は非常に頑張っている。市の福祉担当職員も遅くまで残業している。いつも思うのは、専門性のある職員を育てていただきたい。3 年位で異動される訳ですが、市の各部署においても、専門性のある職員を育てていけるような研修のあり方を検討してくれればありがたいと思う。
委員	◆昨年 3 月 11 日に開催の行財政改革大綱素案を協議した際の議事録にもあるが、人事評価制度の部分で、「一市民としての声を評価へ反映し」という部分がある。総務常任委員会でも人事評価制度について、担当課から説明をもらった。その時に、職員は一生懸命頑張っているのだが、市民からどう見られているのかというのを気にしていただきたい、気付いていただきたいという部分がある。第 3 次実施計画の中には、まだ試行錯誤するということが上っています。最終的に、市民は何を求めているかという視点が職員間で必要な部分であるので、気付きを与える際に、市民はどう思っているかを伝える仕組みについて考えていただきたい。
会長	◆他にございませんか。この件については、これまでの意見を参考にしてください。続いて次の説明をお願いします。

事務局	<p>■ 1-エ「公共施設の再編・整備の推進」について説明</p>
会長 委員	<p>◆ご質問、ご意見ございませんか。</p> <p>◆公共施設の再編・整備で、こちらでは各論的な話をされているが、人口減少社会が本格化する中において、施設をこれからどうしていくのかという、長期的な計画がこれからは避けて通れない。他市町を含めて、いわゆる、ハコモノを含めて、公共施設の総合管理計画を立て、全体像を把握していかなければならないのだが、江田島市はこれについてどうしているのか。</p>
委員	<p>◆江田島市は4町が合併した際、市内に公共施設が数多くありました。その全てを管理するというのは、財源的にも難しく、各町が同じ地区に同じような物を設置していた。そういった中で「公共施設のあり方に関する基本方針」を2年位前に策定した。その内容に基づいて、学校区単位ではこういうものを作り、各町単位においては、支所機能を有する物とするというような、基本的方針を定めている。それに基づいて整備、縮小、統廃合を進めている。</p>
委員	<p>◆公共施設の総合管理計画についてのお訊ねだと思うが、本市では、島津委員が申しましたように、一般的に「ハコモノ」と言われる公共施設については「公共施設のあり方に関する基本方針」を策定している。一方でインフラについては、橋梁の長寿命化計画など、それぞれの部課において、部門別の計画については策定されていますが、それらを一体化したような総合管理計画は策定されていない。これについては、それぞれが個別で作っているものをもう一度洗い直して、総合管理計画という形のを28年度に策定する予定で、準備を進めている。総合管理計画を作る前に、それぞれが個別の管理計画を作っていたので、それをもう一度組み直すというようなイメージで、28年度は対応していきたいと考えている。</p>
委員 会長 委員	<p>◆ありがとうございました。</p> <p>◆他にございませんか。</p> <p>◆江田島市の集会施設について、○市が継続管理するもの ○地域団体移譲するもの ○民間売却するものの3パターンがあるが、こちらで示されている江田島地区、大柿町深江地区のものは、いわゆる地元へ移譲するもので、平成25年9月に条例整備をしており、こちらには光熱費などの維持管理費について半分は市が負担し、期間については、市長の認める期間ということで条例がある。自治会が移譲を受けるということですが、費用負担の部分で、高齢化率が高くなっている地域で、実際に住民が維持管理できるのだろうかということが非常に難航しているのではないかと思います。これは、何回も住民と話をするという方法しかないのか。</p>
委員	<p>◆この問題については、職員が地域に出向いて話をするのだが、総論は賛成で、市役所の言っていることは分かるが、各論になると光熱水費等がかかってくるので、なかなか地域で引き受けてもらえないということが多々ある。地域の方が、そうはいつでもという意見があれば話を持っていきやすいのですが、そうすなりいかないというのが実際である。</p>
会長	<p>◆他に何かありませんか。それでは次を事務局説明してください。</p>
事務局	<p>■ 1-オ「『新たな広域連携』の枠組みの中でのより効果的な行政運営の検討」について説明</p>
会長 委員	<p>◆ご意見、ご質問等ございませんか。</p> <p>◆海のにぎわいづくりについてです。最近感じるのは、以前、中町港でカキ祭が行われていたかと思う。能美町はこのカキ祭で、随分にぎやかだったという思いがある。しかしながら現在、海のにぎわいというのは、ほとんど小用棧橋か切串で行われており、向こう（江田島町）に偏っており、能美町が寂しくなっているのではないかと思います。もっと公平に行事をしてもらえないか。</p>
事務局	<p>■確かに行事は、合併前と比べて減少傾向にあるかと思えます。行事につきましては、実施団体の都合もありますので、この場でイベントを行いますというよう</p>

委員 会長 委員	<p>な回答は遠慮させていただきます。</p> <p>◆そのような意見があったことを、実行委員会などへ提案したい。</p> <p>◆他に質問はありますか。</p> <p>◆広島市が宣言した連携中枢都市圏制度だが、2月の段階で広島広域都市圏発展ビジョンが出ている。特に関心があるのが、職員の育成・確保という点がある。24市町で家屋評価実務研修や、技術系職員OB人材活用制度の創設というのがある。江田島市も、公共施設の再編など、合併特例債の期限までに公共施設を作っていく際、技術系職員が足りないという状況がある。採用してずっと技術系職員が必要ではなく、瞬間的に仕事量が増えたときに、この制度を有効活用していただければと思う。</p>
事務局	<p>■ご指摘の点については、広島市で具体的な会議がありました。いわゆる、技術系のOBの名簿作成まで進んでいます。ただ、呉市や広島市等の比較的大きな都市圏ではOBはいるようですが、比較的小さな市町では、名簿に登録する方がいない状況です。現在すり合わせをしており、人材活用は前進しています。</p>
会長 委員	<p>◆他にありませんか。</p> <p>◆広島市との海生交流都市圏協定で、今年度も商工会では広島駅の地下で江田島市の物産展を行った。開催をしているが、交流しているというのが、具体的に覚えていないと感じている。28年度の取組の中で、具体的な計画や実施案等はできているのか。</p>
事務局	<p>■具体的には、課題にもありますように独自性を出していくのに、考えながら進めているのが現状です。具体的に決まっているのは、さとうみ科学館での子ども達での交流であるとか、物産展等が具体的なものとして検討されると思います。</p>
委員	<p>◆せっかく広島市と交流する機会があるのだから、活用して、積極的に連携を深めていくよう努めてください。よろしくお願いします。</p>
会長	<p>◆では続いて「アウトソーシングの積極的な利用」について、事務局説明をお願いします。</p>
事務局	<p><b>■3-ア「アウトソーシングの積極的な利用」について事務局説明</b></p>
会長 委員	<p>◆何かご意見、ご質問ありますか。</p> <p>◆アウトソーシングは、行財政改革の中では、一つの手法として考えていかなくてはいけないことである。職員もアウトソーシングの仕方や指定管理者制度、PFI手法などの民間資本を借りて実施するなど、多くの手法があり、かなり専門的な知識が必要かと思う。この点について、どのように研修していくのかというのがポイントである。事務事業評価シートの中にも「委託又は市民協働の方向性」という内部評価項目がある。今後職員一人一人が、アウトソーシングについてどうあるべきかという、しくみについて、知識を深めていただきたいと思う。公共交通協議会主催で、両備バスの代表の方が講演されているが、その中でも、高速船の公設民営化というところでのアウトソーシングについては、一定の決着がついたが、陸上交通については、今後どう考えるかということになってくるかと思う。江田島バスについて、代表からは、やはり株式98%保持というのであるならば、直営の市営バス。例えば公設民営で、バス事業者のノウハウを借りての運行スタイルを考えてみるというのも一つの手法であると言われていています。今、役員の方は、バスの専門家ではありません。第3セクターは、意外と補助で成り立っており、経営努力していかない部分もあると思います。そういった意味では、民間手法の部分、アウトソーシングの部分で、第3セクターを指定管理者制度に移行していく等、いろんな研究を担当部署の方がしていただければと思います。</p>
委員	<p>◆専門部分の研修についてですが、滋賀県に全国市町村国際文化研修所という、議員さんも研修に行かれる施設がある。そちらでは、PFIや指定管理など、そのことだけを1週間なら1週間専門の方に教えてもらう研修メニューがある。市役所では、公共施設の白書を作成するときには、それだけの研修に1週間参加させ</p>

	<p>たりする。千葉にも同じような施設がある。そのような専門機関で、そのみの研修を積むという研修に、年間約 10 人程度参加させている。今後も引き続き、本市の重要な行政課題として、その職に就いている者を重点的に参加させたいと考えている。</p>
委員	<p>◆専門的知識を一気に取得でき、実際に使えるかどうか。仕事として使えるかどうかという、習熟度の問題があるかと思う。江田島市も任期付職員採用制度導入の条例も整備されている。このような必要性があり、専門的な知識を持った方を 1 年から 3 年なり、雇用する手法で、現在閉塞している、前に進まないような課題を切り開いていくということで採用を検討してもらえないかと考えています。</p>
会長	<p>◆他にないでしょうか。それでは私が聞いてみたいのですが、アウトソーシングの意味が整理できていないので質問するのだが、現在、旧四町で、以前は活性化支援員とっていた者が職員でいたかと思うが、なかなかまちづくりがうまく進んでいないという状況である。例えば、庄原市では公民館を地域センターにして、その職員が全て行うというのがある。活性化支援員というのがうまく機能していないということもあって、自治会などボランティアの方を活用するといっても、事務局体制もとれない場合もある。地域の中で、事務的なことができる方とか公民館の館長とか、制度が違うのでそれはできないかもしれない。館長とかが事務局的なことを担うか、1 週間に 3、4 日位嘱託員を雇って地域を活性化させる、というような意味でのアウトソーシングというか地域を活性化させることが考えられたらと思う。いつも思うのですが、私の職場でも地域と一緒にいろいろなことをやろうと思うが、地域が組織化されていないのでうまくいかない。介護保険制度が変わった。ご存じのとおり要支援の方が介護サービスを受けるのは地域の市町事業となった。そこを作っていこうと思うと、地域の組織化が無ければ事業ができない。事業ができないとなると、他の市と比べてかなり遅れた市になってしまう。地域の組織化、本当のまちづくりをできるような組織を作るために、市の職員がやっていくのはなかなか難しいと思うので、地域の方でどなたか雇用して事務局的なものを作っていければ、福祉の現場にいるものとして非常にありがたいと思う。そういったことも検討して頂ければと思う。</p>
委員	<p>◆今の件では、公共施設の再編整備で、1 地域に 1 拠点施設を整備していこうとしている。その施設の管理については、行政が今までどおり管理することもできる。もし地域で受けしてもらえるのなら、指定管理者制度で受けもらうこともできます。例えば、深江には深江交流プラザという施設ができています。来年度の事業では宮ノ原に、宮ノ原交流プラザを作るための準備をしています。そこには、これまでどおりでいけば、隣保館職員と公民館職員が配置される。もし仮にこれを宮ノ原地区により指定管理で受けましょうということになれば、指定管理にかかる経費については行政の方から地域に委ねることになる。その地域で、地域の事情に精通した方を雇用して頂いて、ハコモノの管理もして頂くし、まちづくりの事務局を担っていくことも、手法としては可能なような制度を、整備している。あとは、それぞれの地域で、指定管理を受けて、まちづくりが一番よく分かる方を雇用し、ハコモノの管理もまちづくりもやってみようじゃないかということが、合意形成できたら、そこに対して財源を預けるということも、制度的には可能かと思う。是非、能美町でもそのような取組を進めて頂ければ、一緒に協働のまちづくりを進めていくことができると思う。今、会長さんが言われた部分は、まさにこれから私達がやろうとしていることなので、ぜひこれから進めさせていただければと思う。</p>
会長	<p>◆公民館等で、自治会の事務をお願いしたら、公民館では自治会の事務をするようにはなっていないと言われる。中町ではしてくれるが、他の地区ではやってはいけないということを聞く。</p>
委員	<p>◆そういった話はよく聞く。その公民館で勤務するということは、その公民館を中心としたまちづくりを支援するのもあなたの仕事ですということをお願いをしている。まだ私達の指導が行き届いてない部分がある。公民館職員は公民館</p>

<p>会長 委員 会長</p>	<p>の仕事だけをすればいいという声も耳にすることがある。それについては指導をしっかりとしていきたいと思う。</p> <p>◆皆さん他に何かありませんか。 (なし)</p>
<p>委員</p>	<p>◆それでは、5つ程説明がありました。具体的にこういった内容で来年度から進めて頂くこととなります。全体を通して、何かご意見ありませんか？</p> <p>◆ボランティアについてだが、一度引き受けると代わりの方がいないため、辞められない。これから大変な時代がやってくると思う。まちの活性化と言われたが、高齢化に向けてこれからどうするかを考えて欲しい。</p>
<p>会長 委員</p>	<p>◆他に何かありませんか。</p> <p>◆会長さんが言われたことについては、地域包括支援センターが主になって、「地域包括ケアシステム」の構築や、地域に住んでいる方の協力は勿論必要だろうと思う。公助、自助、共助を学んでいただきたいと思う。そのためには、まず、市の職員がにこにこ仕事をする姿、頑張っている姿を見せることが、地域の励みとなる。ぜひよろしく願います。</p>
<p>会長 委員 会長 事務局</p>	<p>◆他にはよろしいでしょうか。 (なし)</p> <p>◆それでは、議題が終わりましたので、進行を事務局にお返しします。</p> <p>■堂野崎会長ありがとうございました。委員の皆さまも、ご意見いただきありがとうございました。閉会に当たりまして、土手副市長よりご挨拶申し上げます。</p>
<p>土手副市長 事務局</p>	<p>(あいさつ)</p> <p>■以上で、平成27年度第2回江田島市行財政改革審議会を終了します。お忙しい中ご参加いただき、ありがとうございました。</p>